資料１－１

ひらつか安心ファイルの改訂に向けた試行運用の結果について

１．試行運用の実施について

（１）対象者

協力医療機関（３か所）が担当する在宅療養患者　１４名

（２）実施方法

担当医師がケアマネジャーに安心ファイルの導入について相談のうえ、配布。

各サービス提供事業者には、ケアマネジャーからサービス担当者会議等でファイルの配布及び活用について説明し、試行的に活用を実施。

（３）実施期間

平成３０年８月～９月（約２か月間）

（４）配布及び活用に協力いただいた機関

居宅介護支援事業所（５か所）、訪問看護事業所（６か所）、訪問介護事業所（３か所）、通所介護事業所（１か所）、特定施設入居者生活介護事業所（１か所）、薬局（１か所）

２．協力機関からの意見や感想

（１）ファイル部分に関するもの

・名刺入れが入ることによって、名刺を入れれば連絡網が完成するので重宝している（３）
・名刺入れがついて便利（２）
・名刺入れは、担当者会議等に出席しないヘルパーが訪問している際もすぐに連絡をすることができるところが良い。
・ファイルの表と裏表紙のポケットには、お薬手帳やフィルム剤、皮下注射の替え針などを入れて、個々の患者さんによって便利に活用している。
・安心ファイルは紛失することなく、とても目立つので契約書類や報告書等、在宅で大量に発生する書類の整理に有用だと思う。
・お薬手帳の置き場や薬剤情報の紙のしまい場所も色々だったが、１ヶ所にまとまったので、他の人にも見やすくなったと思う。

（２）連絡ノート部分に関するもの

・記載用紙は自由に記入できるので、紙のスペースの無駄もなく良いと思う。
・罫線の幅も広く、書きやすく、見やすい。
・できればノートの記入欄に縦罫線がもう１本ある（計２本）と、書いたものに対してのコメントが書けるので良いと思う。
・訪問看護としては記入しにくいかなぁと感じた。ノートは縦罫線を増やし、日付、バイタル、尿・便、食事、メモの項目を設けると家族も記入しやすくなるかもしれない。
・記入する欄が小さい。

・当院で以前から使用している市販のＡ４版リングノートの方が書きやすく、これに代わるものではない。
・今までも連絡ノートは使用されていたが、そこに医師のコメントを書いてくれることが少なかった。このノートになってから医師のコメントも見ることができたので、治療方針がわかりやすい。
・身体状況や処方せん内容の変更等の特記事項を各サービス事業所に記入していただき、情報共有を図っている。
・家族も気づきがあったら何でも書いて良いことになっているが、高齢の家族が人に見られるような文章を書くのは抵抗があるかもしれない（若い人は良く書いてくださる）。
・家族からは、ノートに何か書かなければいけないのかとプレッシャーになると言われた。

（３）その他

・いずれは「ノート」の機能は、ＩＣＴのモバイル情報端末に収束されていくのではないかと思う。当面は「ファイル」の部分は書類整理に有用なので、継続してもらえればと思う。書類の整理ということになると３６穴ではなく、２穴のほうが良いと思う。「ノート」の部分は、従来使用していた大学ノートやリングノートを使いたい。
・日中独居や一人暮らしの増加に伴い、これをサポートするツールとしても有用ではないか。安心カードや避難行動要支援者登録制度とセットで管理できると、救急車到着時救急外来受診時、さらには被災時等に有用だと思う。
・誰に連絡を取り、どのように関係者に支援して欲しいのかがわかるものを入れておくと支援者には助かる。
・大事なのは、そのままの仕様で使うのではなく、それぞれに「工夫して使う」という視点だと思う。
・患者宅でしかみられないので、訪問するまで情報に気づかないことがある。急を要する時は別の方法での連携が必要かもしれない。